

夢をカタチにする方法を学び、社会課題に自ら取り組む、リーダーシップを育てる  
 ～新しい働き方・生き方を求める学生が、起業家のもとに1日弟子入り！～

## 「どすこい起業家ぶつかり稽古」開幕！！

- 《特徴1》100人の学生が、各業界の第一線で活躍する起業家の仕事に1日密着
- 《特徴2》企業の「業績」や「利益」ではなく、仕事を通じた「価値観」「流儀」に触れる
- 《特徴3》次世代リーダーを目指す若者のリーダーシップを育てる

エントリー締切:2017年1月29日(日)

URL:<http://dosukoi.site>

NPO法人ETIC.では、学生100人が業界の第一線で活躍する起業家の元に飛び込み、その仕事に密着する中で、起業家に自分の思いや夢をぶつける1DAYプログラムを開催します。「新卒一括採用」や「働き方改革」など、さまざまな雇用のあり方が模索される現在、これまでとはまったく違う企業と若者の出会いの場が求められています。一方で、若者にとって魅力的でやりがいのある「仕事」にも、変化が生まれています。本イベントでは、高校生から大学生までの若者が、起業家と接することで、自分の夢をカタチにする方法を学び、社会課題に自ら取り組む、リーダーシップを育てます。



### ●多様なジャンルの起業家が参加

教育、インターネット、まちづくり、テクノロジー、ファッションなど、さまざまな業界の第一線で活躍する起業家が学生に胸を貸します。

◇参加起業家(一部)

【教育】松田 悠介(認定NPO法人Teach For Japan)

【クラウドファンディング】

家入一真(株式会社CAMPFIRE)

【シェアリングエコノミー】

上田 祐司(株式会社ガイアックス)

和田幸子(プランニュウスタイル株式会社)

【漫画】

伊藤貴広(株式会社パルミー)

【BoTビジネス】

中島 徳至(Global Mobility Service株式会社)

【経営支援・組織開発】

原田未来(株式会社ローンディール) 他

### ●見直される「新卒一括採用」

ヤフー、ソフトバンクが新卒一括採用を廃止、「30歳未満であれば通年で応募できる」採用体制に切り替え、広告業界大手のアサツーディ・ケイが、面接する社員を学生が選ぶ「相棒採用」を取り入れるなど、これまでの採用方針を改め、多様な人材を採用する企業が増えています。本企画では、学生が直接経営者の姿勢や思い、仕事の流儀に触れることで、企業と学生の新たな出会いの形をつくります。

### ●次世代のリーダーを目指す若者の増加

デロイト・トーマス社の調べによれば、ミレニアル世代(1982年以降生まれ)の多くの若者は、企業を選ぶ際に業績や利益よりも、企業の姿勢や目的意識を大切にしていることがわかっています。また、多くの若者が自らのリーダーシップスキルを磨きたいと考えています。本企画では、起業家と接することで学生が自分の夢をカタチにする方法を学び、目の前にある社会的な課題に自ら取り組む、リーダーシップを育てます。

《開催概要》

●ちゃんこ会(事前プログラム)

オリエンテーション、パネルトーク、交流会など。

【日 時】2016年2月11日(土)13:00-17:30

●ぶつかり稽古本番:2月13日(月)～2月16日(木)

【日時】上記4日間のうち1日が実施日となります。

※会場・実施日は受入先ごとに異なります。

●ごつつあん会(事後プログラム)

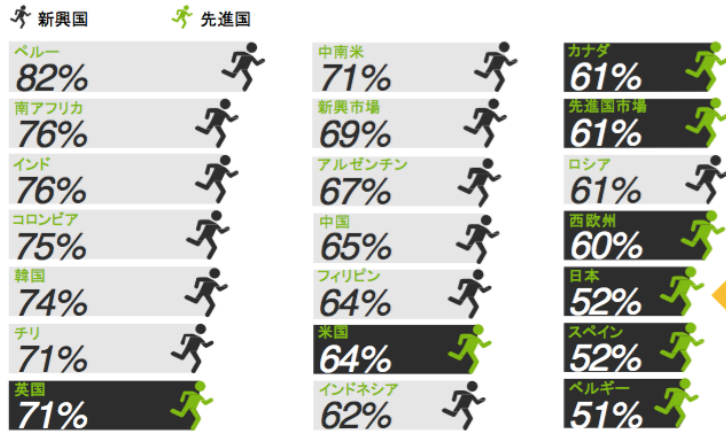
【日 時】2016年2月17日(金)13:00-19:00

参加者による振り返りセッション、交流会など。

# 【「どすこい起業家ぶつかり稽古」の企画背景】

## ミレニアル世代の半数以上が2020年までに離職を考えている。

図2：新興国のミレニアル世代は現在の組織に対する帰属意識が最も低い  
今後5年間に予想される離職者の割合は...



「ミレニアル世代(1982年以降生まれ)と呼ばれる若者の44%は、良い選択肢があれば今後2年以内に現在の雇用先から離職するだろう」と回答。「期間を2020年までに伸ばすとその数字は66%にまで増えた」

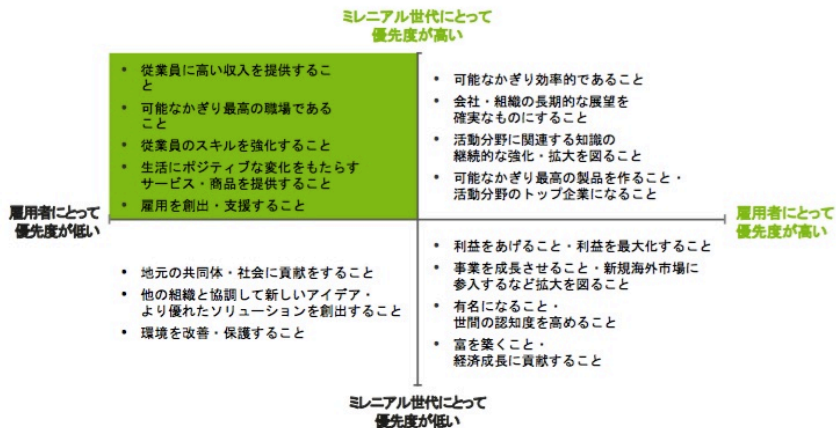
日本でも「ミレニアル世代の52%が2020年までの離職を考えている」と回答。2人に1人が2020年までに違う仕事につきたいと考えている。

国の分類に関する情報は [こちら](#)。  
質問：選択肢がある場合、どのくらいの期間で新しい組織に所属する、または別の道に進みますか？

## いま一番働きたいのは「業績」や「利益」がいい企業でなく、 前向きなエネルギーや社会的な取り組み！

図7：ミレニアル世代は成長や利益の最大化より、人を中心とした目的意識を優先する

企業側が、「利益の最大化」や「事業の拡大」を重視する一方で、若者たちは「生活にポジティブな変化をもたらすサービス・商品を提供すること」や「従業員を成長させてくれること」など、人を中心とした目的意識を優先しており、お互いの考え方には大きなギャップが生まれている。



質問：自身の職場について考えた場合、次の項目に対する目的意識の強さはどの程度ですか？  
質問：また自分自身としては、所属組織の最大の目的意識がどこにあることを望みますか？

※データ参照元：デロイト トウ・シュート・マツ  
「2016年 デロイト ミレニアル年次調査」

## 特定非営利活動法人 ETIC.

ETIC.は、1993年、学生起業家の全国ネットワーク組織として活動開始。一貫して自ら社会に働きかけ、価値を生み出していく起業家型リーダーの育成に取り組んできました。1997年よりITスタートアップやソーシャルビジネスの「起業家の右腕インターンシップ」を事業化。18年で2800人の学生が参加。これまで700名以上の起業家を輩出。2016年より、10年後の未来をつくる次世代のイノベーター達が集う、大学生・大学院生対象の「現代版・私塾MAKERS UNIVERSITY」を設立。 <http://www.etic.or.jp/>

## ご取材・お問い合わせ

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-5-7APPLE OHMIビル4F  
Tel: 03-5784-2115 / 090-5850-7822 / Fax: 03-5784-2116  
Mail: [chisato.kamiya@etic.or.jp](mailto:chisato.kamiya@etic.or.jp) 担当: 神谷知里